



「思い出のランドセルギフト」 2021 年春配付レポート

2021 年 6 月

女性・選択できる世界を。

JOICFP

アフガニスタンの女の子が置かれた状況

アフガニスタンでは、長く続いた紛争などにより多くの学校が被害を受けました。その上、近年のタリバン、ISなどの武装勢力の拡大により、テロ活動が活発になり、未だ紛争が絶えません。数年前まで学校があった地域ですら今は多くの子どもたちが校舎のない青空教室で学んでいます。

紛争や貧困が原因で学校に通えない子どもたちも多くいます。特に女の子は、貧困のために水汲みや農作業などの手伝いを期待されるために、就学できなかったり、学校を中退してしまうことも少なくありません。



青空教室の様子

女性教師の不足、また通学路が安全でなかったり、学校に女子用トイレがないなど、女の子が安心して通える環境が整っていないことも背景にあります。ランドセルを配付しているアフガニスタン東部のナンガハール州では、同州教育省の調査によると、州内の小学校の70%が校舎や黒板、ござ（青空教室で敷きものとして使用）などの備品が不足しています。

「世界子供白書 2019」によれば、アフガニスタンでは、4割の女の子しか小学校を修了していません。貧しい上に、教育は女の子にも重要であることが、家族や地域に十分に理解されていないからです。女の子は早ければ12~13歳で結婚させられることもあり、母体が十分に発達していない10代前半から出産を始め、何度も出産を繰り返すことにより、命を落とすこともあります。女の子が教育を受けることができれば、保健・衛生・栄養等の知識をしっかりと身につけることができ、将来、自分と家族の健康を守ることができるようになります。

色鮮やかなランドセルを背負って男の子たちと同じように満面の笑顔で学校に通う女の子たちの姿が、親の女子教育に対する消極的な意識を変えることにもつながっています。

配付地域の状況

2021年は、ナンガハール州のロダット郡をランドセルの配付地域に決めました。ロダット郡はナンガハール州の州都ジャララバード市から南へ25kmに位置しています。他の地域に比べ、比較的治安の安定している地域です。現在、工業地帯、駅などが建設され始めた地域ですが、人口のほとんどは貧しく、小麦、綿花、いちじくなどの果物などの農業で生計を立てています。

この地域でのランドセル配付は2012年以来、2回目となります。



ロダット郡の田園風景

アフガン医療連合センター、教育省との話し合いにより、配付地域、対象を選定し、様々な機関と連携して配付を行いました。対象は、地域の1年生～3年生で、ランドセル配付を通じて、その子どもたちの家族にもアプローチをする狙いがありました。

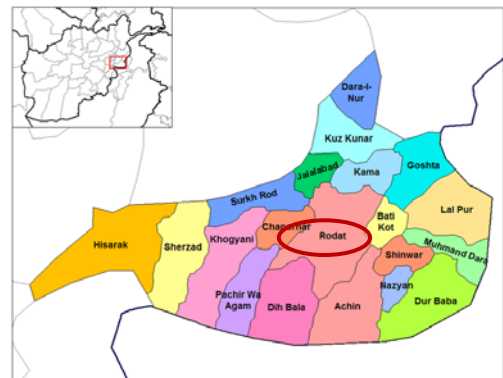
ランドセルと一緒に寄贈された学用品を均等に分け、一人につき、ノート2冊、鉛筆10本、消しゴムや鉛筆削り、色鉛筆などの学用品などをランドセルとセットにして渡しました。



配付を円滑に行うため、様々な関係者が立ち会いました

配付情報

- 配付期間：
2021年1月9日～5月25日
- 配付個数：9567個
2020年3月～10月回収分7200個および2020年11月～12月の回収分2367個
- 配付対象：
ナンガハール州ロダット郡の小学校47校の小学1年生～3年生9567人（女子5488人、男子4079人）
- 配付実施団体：
アフガン医療連合センター（UMCA）



成果

- ✓ 9567人の児童にランドセルおよび学用品を配付、就学環境を改善した
- ✓ 9567人の児童に配付の際に、健康教育を実施し、衛生、手洗いの指導を行った
- ✓ 9567人の児童を通じ、家庭で使用する健康に関する啓発ちらしを配付、衛生、育児、栄養に関して地域の啓発に貢献した
- ✓ 配付した学校での退学数が減少したと報告された

学校や地域からのメッセージ

ロダット郡教育局長

日本の皆様のご支援、ジョイセフ、アフガン医療連合センターのスタッフの皆さん、一緒に配付に携わった郡教育省のチームに大変感謝しています。アフガン医療連合センター、地域の協力により、配付は問題なく円滑に行われました。今後もぜひアフガニスタンの教育の向上のために、ご支援いただければ幸いです。ありがとうございました。



ランドセルを受け取った子どものストーリー

シャバナさんとサカワトゥラー君

学校の敷地のすぐそばでランドセルをもらったことを嬉しそうに話している子どもたちがいました。妹のシャバナさんと兄のサカワトゥラー君です。シャバナさんが、中に入っている学用品についてどういう使い方をするのか、嬉しそうに兄に説明しているところでした。二人の父親は日雇い労働者で、朝早くから仕事を探しに出て、わずかな食糧を手に入れて夜遅く帰宅します。貧しさから学校に通えていませんでしたが、今年から2人とも学校に通い始め、同じ小学1年生です。



アフマド君とワリード君

9歳のアフマド君と7歳のワリード君の兄弟はともにクラスメートでもあります。貧しさでお兄さんの方が入学の時期が遅れたためです。二人の家庭は父親が年を取っていて無職で、貧しく物乞いをしたり、寄付で生活しています。二人とも皮膚炎を患っていますが、治療を受ける金銭的余裕がありません。今回のランドセルの配付で二人は黒と赤のランドセルと新品の学用品、お弁当箱を受け取りました。「日本の子どもたちからプレゼントをもらって、とても幸せです。ノートも鉛筆も持っていなかったのもうれいのです。ありがとうございます。」



フォトギャラリー

